

## (6) 下咽頭の観察

ポイントとして、下記1)～8)について解説する。

- 1) 下咽頭の観察
- 2) 後壁・側壁の概形
- 3) 梨状窩・披裂間背側の空間
- 4) 喉頭の状態
- 5) 喉頭運動の左右差
- 6) 下咽頭残留の確認
- 7) 喉頭侵入の確認
- 8) 誤嚥の確認

### 1) 下咽頭の観察

喉頭侵入や誤嚥が生じる場合、下咽頭を経由して生じることが多い。したがって、下咽頭の観察は特に重要になる。

咽頭全体の観察をさらに詰める。そして、気道の入り口で誤嚥防止の構造物である喉頭を観察する。

### 2) 後壁・側壁の概形

「5) 咽頭の概形 (p16)」の詳細を確認する。下咽頭、特に食道入口部に近接した咽頭壁の概形を確認する。

下咽頭壁の概形は、【丸(○) / 四角形(□) / 三角形(△) / (下咽頭壁が狭い/広い)】程度に分類する (p16 参照)。

### 3) 梨状窩・披裂間背側の空間

「5) 咽頭の概形 (p16)」の詳細を評価する。また、下咽頭壁と喉頭の距離、その間の空間を評価する。

梨状窩は広いほど残留しやすくなるが、溢れずに溜められる量は増える。一方、梨状窩が狭いほど溢れずに溜められる量は減るが、残留しにくくなる。

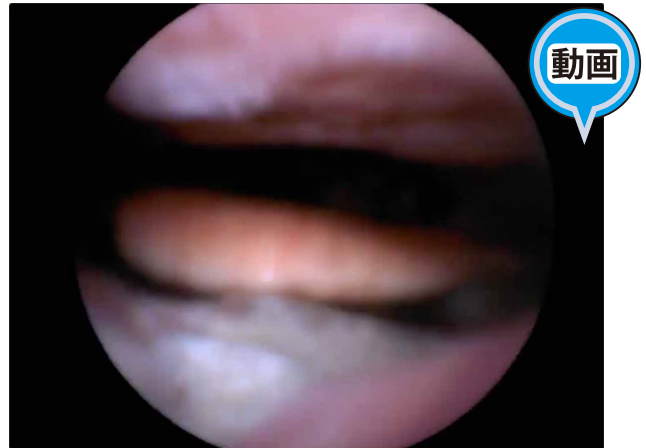
梨状窩は、空間が【ほとんどない/ある/広い】程度に分類する。

披裂間背側の広さは，広いほど誤嚥リスクが低い。

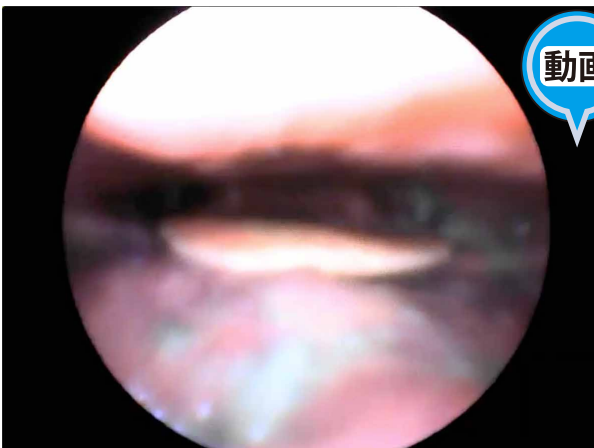
披裂間背側の広さは，空間が【ほとんどない/溝がある/広い】程度に分類する。



動画13 カール状喉頭蓋/喉頭蓋が舌と接触/披裂間の背側空間が広い



動画15 扁平喉頭蓋/披裂間の背側空間が狭い



動画16 扁平喉頭蓋/披裂間の背側空間が狭い/ヨーグルトで咽頭残留

#### 4) 喉頭の状態

喉頭そのものの概観を観察する。

喉頭全体に浮腫があるときは，披裂喉頭蓋ひたと仮声帯の移行部が不明瞭になっていることが多い。披裂間は粘膜の異常が生じやすく，粘膜面にざらつきがあったり半透明の浮腫を生じていたりする。

喉頭浮腫は，【浮腫あり/披裂間浮腫あり/なし】程度に分類する。

仮声帯は，声門閉鎖の主体である。仮声帯が痩せていると喉頭侵入や誤嚥を生じやすくなる。また，痩せてくると仮声帯が凹んで見えるようになる。

仮声帯は，【凹/平坦/凸】程度に分類する。

また，喉頭全体に浮腫がある場合は，仮声帯のボリュームが大きく見える。実際，浮腫があるために喉頭侵入が抑制されることもある。浮腫改善後に喉頭侵入が増悪することがあるため，注意を要する。

## 5) 喉頭運動の左右差

神経障害や炎症，筋疾患などで喉頭の運動障害が生じることがある。喉頭運動の評価では，左右差がわかりやすい指標になる。ただし，左右差のない運動障害もありうるので注意が必要である。また，喉頭運動に左右差があっても，どちらの運動が障害されているかを判断するのは難しいことが多い。そのため，無理に左右どちらに運動障害があるかを決める必要はない。

喉頭運動は，【左右差あり/右不全/左不全/両側不全/問題なし】程度に分類する。

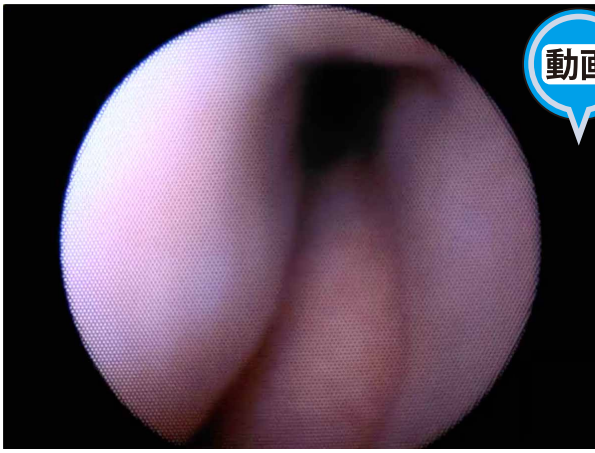
## 6) 下咽頭残留の確認

下咽頭残留は左右梨状窩と正中の3つにわけて，【溢れている/溢れそう/溢れない/ない】程度に分類する。

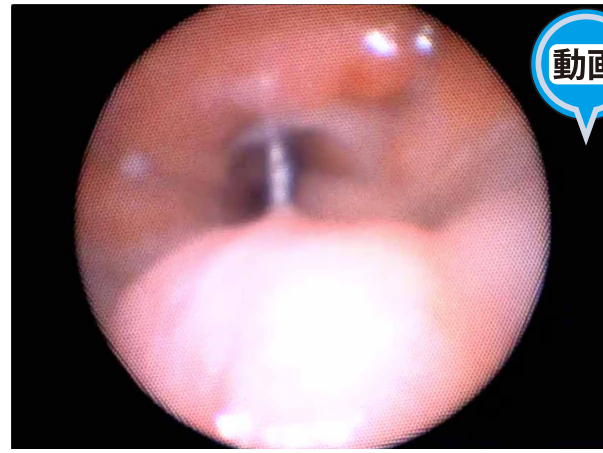
## 7) 喉頭侵入の確認

侵入ルートと声門からのおよその距離を確認する。

侵入ルートは【披裂間/披裂喉頭蓋ひだ(右・左)/喉頭蓋側面(右・左)/喉頭蓋上部】の6ルート，声門からみた位置は【外側/中央/内側/声帯上】程度に分類する。



動画05 鼻汁/喉頭侵入/咽頭収縮や  
や弱い/水分左から喉頭侵入



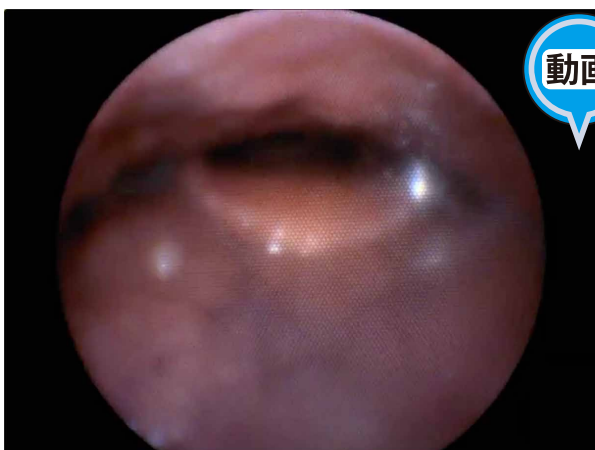
動画06 鼻汁/大きなU字喉頭蓋/狭  
い咽頭腔/水分喉頭侵入外側



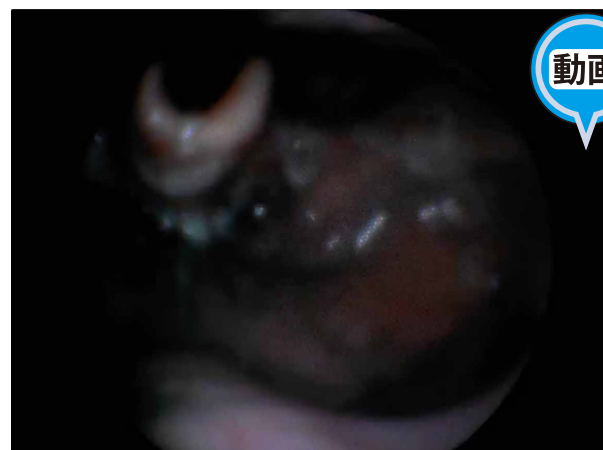
動画07 姿勢:右下完全側臥位/鼻汁  
/大きなカール, 筒状喉頭蓋/喉頭  
侵入



動画09 口蓋垂と喉頭蓋が遠い/筒状  
喉頭蓋/水分喉頭侵入内側



動画14 カール状喉頭蓋/喉頭蓋が舌  
と接触/水分喉頭侵入



動画20 上部が狭い筒状喉頭蓋/咽頭  
後壁のせり出しあり/水分喉頭侵  
入声門上まで